

27年度自己評価結果公表シート

作成 大阪樟蔭女子大学附属幼稚園

1. 本園の教育目標

「未来を生きるための根っこを育てる保育」つまり、のびやかな個性の育成と「知・情・意」を基本に、生き生きとした生活の中から真の知性を高め、豊かな情操、思いやりの心、創造性や自主性を育て、健全な人間関係の基礎を培う。

2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

子どもが主体となる生き生きとした保育を支える教師力・保育力の資質向上を目指す。

- ・幼児期に大切な教育について保護者理解に努める。
- ・系列校との連携を通して、人的環境・物的環境の充実に努める。

3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組状況
・教師の子ども理解・資質向上を目指し、園内研修の充実に取り組み、各種研修会へも積極的に参加し、自己研鑽と共通理解に努めていく。	カリキュラムをもとに子どもの興味に即したねらいを設定し、ねらい達成にむけてのクラスの保育の様子を数日にわたりビデオ撮影し、教師が視聴する園内研修を行った。自身の保育の様子や子どもの姿を客観的に見直し、共に視聴した教師と意見交換を行うことにより、保育の振り返りと充実に努めた。また、教育方針の再確認と共通理解を行い、組織の一員としての役割について、教員の意識改革、仕事内容の精査・適正化に取り組んだ。教員一人ひとりがいきいきと輝ける保育内容や保育のあり方を検討し、資質の向上に努めた。
・保護者とのコミュニケーション作りに努め、子どもの育ちや幼稚園の教育方針への理解・連携を構築していく。	毎日の送り迎えで来園される保護者に対して、その日の出来事を写真やコメントで全体に伝えたり、個々の子どもの成長の様子を話したりして、登降園時の保護者とのコミュニケーション作りを積極的に行った。子ども達の発達や成長を見据えた園の様々な取り組みや、目に見えない教師の思いや願いについても、日々伝えた。保育中の子どもの様子や内容を理解してもらえよう、ビデオ撮影し、視聴してもらおう機会を設け、園の思いの見える化に努めた。「食」ということでは、誕生会やクッキング等の行事においても子どもの食に考慮していく姿勢を目指した。
・樟蔭学園との連携。	様々な世代とのかかわりが深まるよう、年間を通して大阪樟蔭女子大学児童学部の実習生・ボランティア学生の受け入れ、樟蔭高校児童教育コースの体験実習の受け入れを積極的に行った。また大阪樟蔭女子大学教員による課外保育等も実施し、子どもの体験

	が深まるよう努めた。学園内にある畑を利用し、季節の作物を育て収穫を経験すると同時に、丸太を使った遊具を設置し、自然環境の充実に力を注いだ。
--	---

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

- ・子ども達が主体的に取り組める保育、受け止めて伸ばす保育を目指し、保育内容・保育環境の充実、教員の資質向上に取り組んできた。結果、教師一人ひとりが自ら発信できる力が高められてきていると感じる。今後も継続して取り組んでいきたい。
- ・様々な世代や環境での人とかかわりから生まれる経験や学びを大切に、大学・高校・中学との連携の充実に取り組み、学生が保育に参加する機会、人数が増えた。今後も連携を大切に取り組んでいきたい。
- ・一つひとつの行事を子どもの発達段階から教育的・文化的視点から再検討したことにより質の高い保育体験、保育環境の提供に繋がったが、引き続き努力を必要とする。
- ・家庭との連携や保護者理解に関しては、登降園時に必ず保護者と顔を合わせる環境を十分に活用した。今後もさらに関係強化に努めていきたい。

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
保育自然環境の充実	従来の芝生の園庭の維持・管理に努め、更なる自然環境の充実に努める。また子どもが動物の生き生きした姿を目の当たりにでき、十分触れ合える「みんなの庭」の維持、ハーブ畑を充実する。また、「みんなの畑」の活用の幅を広げる。
系列校との連携強化	学生ボランティアの充実や大学・高校教員による子どもの情操教育となる保育の実施、保護者や地域へ向けての講演を検討していく。
危機管理の対応	大地震や今までに経験のない自然災害への対応も想定し、引き続き防災・防犯に対するマニュアルを検証する。また、研修を行い、より良い危機管理体制にむけて取り組んでいく。

6. 学校関係者よりの意見（平成28年3月18日実施）

- ・クラスに関係なく全ての教師が言葉がけや対応をしてくれる。
- ・自然とふれあったり、動物の生態にふれたりすることができる環境が良い。
- ・子どもが子どもらしくのびのびと過ごせる環境が素晴らしい。
- ・子どもの思いを引き出す教員が多い。
- ・さらなる危機管理の向上に取り組み、より良い安全管理につなげてほしい。

- ・地域密着を有効活用してはどうか。
- ・小学校を増設し、大学までの一貫教育を考えてほしい。
- ・系列校との連携を大事にし、附属であることの特徴をいかす。
- ・普段と違う体験ができ、夏休み講座は良かった。今後、増やしてほしい。
- ・未就園児クラスと在園児がかかわる機会があり、嬉しい。
- ・HP や広報を充実する必要がある。

7. 財務状況

学校法人樟蔭学園として、監事及び公認会計士監査により、適正に運営されていると認められている。